7/17

創世記16章

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　レポーター：マ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　書記　　　：五

【個人的に思ったテーマ】

　信仰とは？神を信じるとはどういうことなのか

【あらすじ】

族長のアブラムとその妻サライの間には子供が生まれなかったため、サライは自分の女奴隷ハガルをアブラムの側女としてさしだし、ハガルはアブラムの子を身ごもった。ハガルは身ごもるとサライを軽んじた。そのためサライはハガルを虐めた。これに耐えかねたサライはサライのもとから逃げ出したところ、主の御使いに出会った。

【16章を読んだマの感想】

登場人物みんな~~ゴミだな~~人間らしい一面もあるんだな

サライ：いろいろひどい、ハガルいびりすぎだろ

アブラム：えっ、嫁からの責任転嫁。かわいそう。でも仲裁してやれよ・・。

ハガル：身ごもってから調子にのりすぎたんだ・・・

【知識】

・アブラムは族長である。

・代理母は古代中近東での一般的習慣だった。

・野生のロバのような人間：飼いならすことが難しく、敵対的で、独立し、圧迫を受けにくい人間

・カデシュはベエル・シェバの南およそ80キロにある荒れ野の中のオアシス。

・ベレドは、言い伝えによればカデシュの北西19キロのところにある井戸。

・ユダヤ人とイスラームの伝統の間では、イシュマエルを全てのアラブ人の先祖と見ている

【設問】

Q１.どうしてこんなややこしいことに陥ってしまったのか？全体を読んでどう思いましたか？

S：なんでサライはハガルを軽んじたのか？

I：またそそのかしたのは女。出産をいそぎすぎたのでは？アブラムの血を引くものが受け継がないといけないというのが神からの教えで、アブラムは神の御告を守っただけ？

Q2. アブラムは15章4節で主からの言葉を受けとっていますが、サライの提案を受けたことは破ったことになるとも思いますか？その理由は？

T：アブラムの行為とイシュマエルが辛い人生を送ることになることには相互性がない。

S：イシュマエルを身ごもるのはサライの提案であってアブラムの自発的な行為ではないことに違和感。

I：ハガルの視点で考える。ハガルはこのあとイシュマエルを奪われるかも。

滝：子供をおじいちゃんおばあちゃんに預けときながら育児方針にちょっかい出すことを非難する親みたいな感じ。←イイネ！

山本先生：これは大奥。世継ぎを誰が生むか？最初は侍女として大奥に入ってきた生娘が、子供を生んでから人が変わる。壮絶な女バトルが始まる。サラは子供を持つために割り切っていたが、実際にやってみるとつらくなってくる。

ロバは飼い慣らせば便利だが、できなかったら厄介。

Q3.5節：サライのあなたのせいですというのはどういうことを指しているの？

マ：当時の社会では、家での最終決定権は男にあり、たとえサライの提案でもそれを実行したアブラムに責任がある。

Q4.10節どこかで同じ表現があったような？

マ：１５章５～６節

Q5.どうしてハガルがエジプト人であることを強調しているのか？どうして神は異教の国（エジプト）の女であるハガルにも祝福を与えたのだろうか？

け：世界宗教の神様だから異教の人間も含む。

滝：災いは内から出てくるもの。イシュマエルの子孫はアラブで勢力を増やし、後のアブラムの子孫に苦悩を与える。

ハ；そもそもハガルは異教徒なのか？

山本先生；ユダヤ人は割礼を受けた時点でユダヤ人になる。子供が増える→約束が果たされた？約束の全ての部分がイシュマエルにあるのではない。

SQ.現代の代理母問題、あなたは賛成？反対？

　代理母とは遺伝的につながりの無い受精卵を子宮に入れ、出産すること。＜Wikipedia参照＞

＜具体例＞高田延彦・向井亜紀夫妻の問題

　アメリカで代理母出産に成功。最高裁の結論では子供たちは国籍を得るが、向井亜紀と子供たちの血縁関係は認められないと結論を下す。

【後日談】創世記 21章9節～21節　25章12節~17節